

2022年6月30日

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会  
会長 十倉 雅和 様

公益社団法人 大阪自然環境保全協会  
会長 夏原 由博

2025年日本国際博覧会会場の建設整備に対して夢洲の生物多様性の保全と回復のため  
の協議会の設置を求める要望書

大阪市は、2025年日本国際博覧会の会場の環境影響評価手続きに際して、「夢洲では多様な鳥類が確認されていることから、専門家等の意見を聴取しながら、工事着手までにこれら鳥類の生息・生育環境に配慮した整備内容やスケジュール等のロードマップを作成し、湿地や草地、砂れき地等の多様な環境を保全・創出すること。」との市長意見を提出しています（令和4年2月9日付け）。

これを受けて、自然保護3団体<sup>1)</sup>は3月16日付けで、2025年日本国際博覧会協会（以下、万博協会）ほか関係機関に、要望書を提出し、その中で「関係する環境団体や専門家など多様な関係者とのオープンな協議会の場を早急に設けること」を求めています。

また、万博協会第4回持続可能性有識者会議（令和4年6月2日）では、渡辺委員から(1)生態系の保全回復、(2)専門的な知見、経験を有する市民団体が参加した形での協議の場、(3)大阪市をはじめとした関係機関と一緒に検討することの重要性が指摘されています。

我々は、コアジサシやシギ・チドリ類などの水鳥の生息地である夢洲の生物多様性の保全と回復を目指した整備に向けて、関係する環境団体や専門家など多様な関係者とのオープンな協議会の場を早急に設けることを強く要望します。